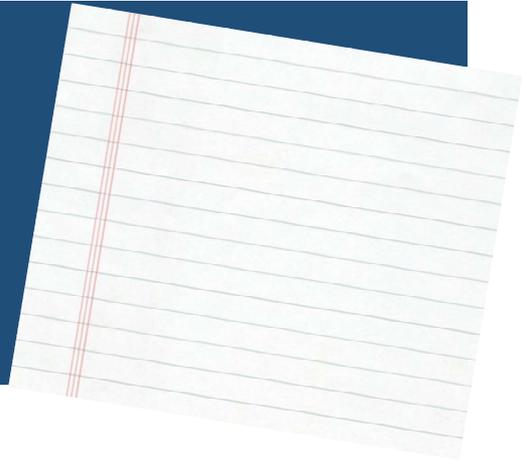


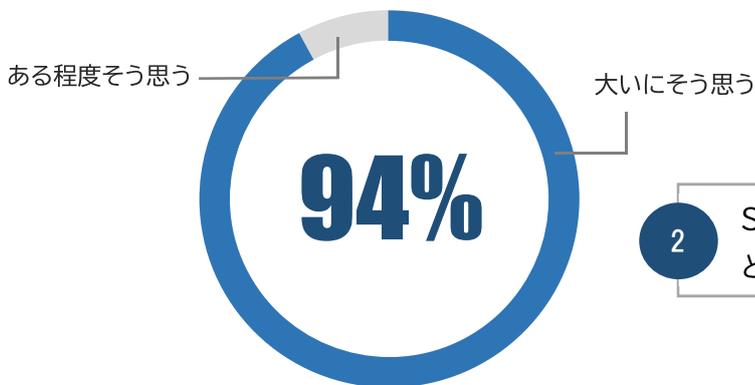
2023年9月調査

School Partner アンケート結果



1

SP活動は、教育活動についての理解を深めたり、教職としての実践力を付けたりする上で役立ったと思いますか？



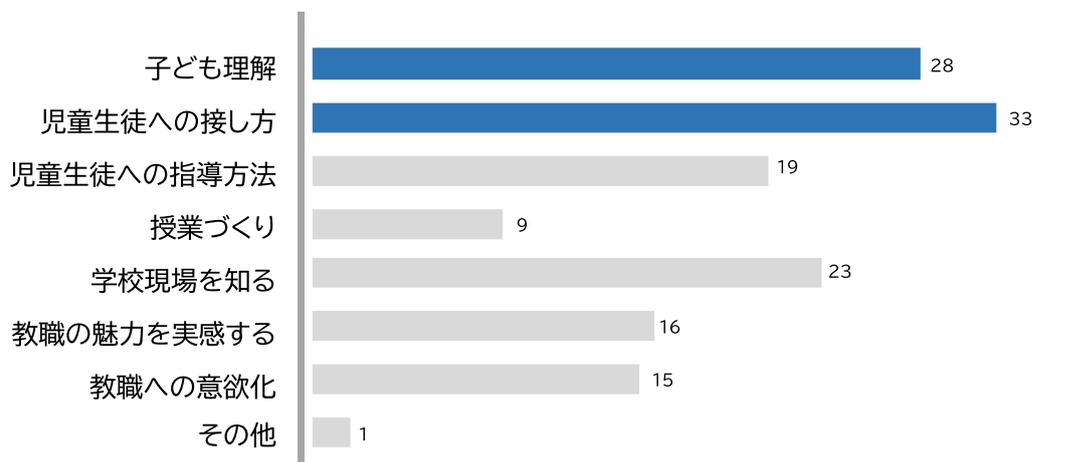
2

SP活動は、自身の期待していた学びの場としてどう思いましたか？



3

どのような点で役立ちましたか？



- 授業の様子や先生方と子どもとの関わり方を間近で見ることができるのが魅力的です。先生方が授業で取り入れているミニゲームや板書の仕方、子ども中心の活動など、将来教師になった際に生かせることをたくさん学ぶことができます。
- 実際の教育現場について知ることができる点です。いろいろな先生方の授業に入ることを通して、授業を一方的に聞いて児童に個別支援を行うだけでなく、「自分はこう指導してみたい」と考えながら活動することができます。指導方法についても多くの先生方の授業を実際に見ることができる点も魅力的です。また、日々の児童との関わりを通して、できなかったことができるようになったことを児童と一緒に喜ぶことができる点も魅力を感じています。
- 最近あまり活動できていませんが、週に一回程、小学校で養護教諭のお手伝いをさせて頂いています。実際に子どもや現場の先生方と関わることで、保健室と学校がどのような場所であるのかということボランティアを行う前よりも知ることが出来ました。また、大学では子どもと関わるのが少ないので、子どもと実際に接することで考えさせられることがたくさんあります。応急処置や保健指導では、養護教諭の一人一人の子どもに対しての接し方や対応をみて、疑問に思ったことは調べたり先生に尋ねたりすることで、自分の力にすることができたと思います。実際に学校へ行き、子どもたちや先生方と関わることで、座学や大学の実技のみでは得られなかった知識や技術がボランティアを通して身につけられる点が魅力的であると思います。
- 子どもたちとたくさん関わりながら、普段の学校でどのような授業が行われているかということを実際に観察しながら学ぶことができます。学校による特色などを知る機会にもなりました。
- 学校現場を見ることができるのはもちろん、指導方法や子どもたちとの関わり方など毎回の活動で学びがあるという点が魅力的だと思います。また、子どもたちや先生方に「ありがとう」と言ってもらえた時や、「あ、〇〇先生！」と声をかけてもらった時に、ウィークリーSPとして活動をしていて良かったなと感じます。
- 普段の学校を知ることができる、貴重な機会だと思います。「わくわく算数教室」の活動もとても楽しいですが、ウィークリーSPでは全ての児童と接することができるので、いろいろな児童がいるのだと実感できます。
- 子どもたちに名前と顔を覚えてもらえると嬉しいです。
- 子どもとたくさんの時間と関わることができ、様々な子どもと出会うことができる点に魅力を感じています。また、SP同士の関係が深まったり、現場の先生の声を聞くことができる点も魅力的です。
- 教員を目指していたら宝のような経験がたくさんできます！面接でも役立ちますし、教員になった際にも必ず役立つと思います。子どもたちは個性豊かで、全員に同じ対応はできないので、一人一人に合った対応の仕方や指導の仕方を身につけることができます。また、人としても大人としても成長できていると感じています。先生方もとても優しくコミュニケーションをとってくださり、のびのびと学ぶことができる最高の環境です。行事にも参加することができ、感動も味わうことができる点も魅力的だと思います。
- たくさん子どもたちと接する機会があることが魅力的です。実習では、一つのクラスに付きっ切りですが、SP活動では、いろいろな学年に入らせていただけて、それぞれの学年の特徴も知ることができました。
- 子どもとふれ合い、子どもたちの考えを知り、信頼関係を築くことのたいへんさややりがいを感じることもできました。
- 実際に児童が授業を受けている様子や遊んだりしている様子を観察することで、その場面に応じて児童にかけるべき言葉や取るべき行動などを判断する力が身につけられると思います。また、児童と近い距離で接することで、教職の魅力を実感でき、自身の教員になりたいという意欲も向上しています。
- 「わくわく算数教室」だけでは見ることのできない、授業を受けている児童の姿や現場の先生方の指導方法などをリアルに学びとることのできる点が魅力的です。

- 「わくわく算数教室」を通して、ほんの一部だけだと思いますが、教員の多忙さや大変さを知ることができました。3人の子どもを相手に算数を教えることさえ大変だと感じたのみ、数十人の子どもたちを相手に活動することはさらに忙しくなるのではないかと感じました。学習内容の理解度や個性など一人一人違い、個人差があるため、その子にあった指導方法を考えて実践することが難しいと感じました。しかし、子どもたちが真剣に学習している姿や笑顔で友達と話をしている姿を見て、日頃子どもたちの成長に関わる、教員という仕事はとてもやりがいのある仕事だと思いました。
- ボランティアの活動を通して、全体での授業についていくことが難しい児童も個別に寄り添い、サポートをしてあげることによって授業を楽しみを感じさせてあげることができることを学びました。授業では、全員の前でわからないことを「わからない」と言えない児童でも、SP が授業中にいけば「ちょっと来て！」と呼んでくれることがあります。そこで、一緒に考えることを通じて「できた」という成功体験をさせて、授業を楽しみを感じさせてあげることができることを学びました。授業で問題を解く中で、わからないまま時間切れになり、答えだけ教えられ、ノートに答えを書き写すだけで終わってしまうのではなく、わからない児童に寄り添い、少しずつヒントを与えながら解答に導いてあげることが大切だと感じました。
- 実際に子どもと関わる機会を得ることが出来て、とても良い経験ができたと感じました。今回は 1 回のみでの参加でしたが、次回は複数回参加したいです。現場の先生や教師を目指す学生が多くいるコミュニティは貴重なのでこれからも大切にしていきたいと思いました。
- 大学の授業で東浦町の学校教育は画期的な息の長い取り組みが行われていることを学び、興味を持っていました。大学での活動と今回のボランティア活動を通して、同じ東浦町内でも学校によって壁がない学校、日本語適用教室がある学校など、学校によって様々な特徴があることがわかりました。地域によって求められる教育が異なり、ニーズに合わせた学校になっていること、東浦町の学校は画期的な息の長い続けられていることを実際に自分の目で見て学ぶことができ非常に良い学びになりました。
- 学生ボランティアに参加し、先生方のお手伝いをする中で、自分が小学生の頃に楽しい学校生活を送っていたのは、たくさんの人の支えがあったからなのだと気づきました。また、授業の補助に入って、伝えることの難しさや、寄り添うことの難しさを実感し、どうすればうまく伝えられるか、どこまで寄り添うべきかなど、様々なことを日々の活動を通して学んでいます。
- 今まで大学で勉強してきたことをいざ実践してみると難しいと言うことがわかりました。
- とてもやりがいを感じ、自分たちのこととはまた違った感性を持った子どもたちと関わり合うことで自分も学べるものがたくさんあり、とても良い経験になりました。
- 1人で黙々と学ぶことが学びの全てではなく、周りの子と問題解決に向けて話し合いをして、考えを深めていく学びもとても大切だと感じました。今回は、時計を見て時間意識を持ちながら問題を解くよう心がけてみました。すると、集中力がすぐ切れてしまう子でも、「時間に負けてたまるか」という勢いで一生懸命取り組むことが出来ていました。何かで目安を作ることで、だらだら取り組むのではなく、テキパキと取り組めるようになることを学びました。
- 子供たちは案外、学生のことを覚えてくれているなどと思いました。久しぶりにボランティアに参加しても、「〇〇先生！」と来てくれるのでとても嬉しく感じます。ただ、色々な生徒がいるので考えさせられることもありますが、なかなか出来ない経験だと思っています。

- 今回の算数教室では、分からない問題を持つ児童・生徒に自分なりの解き方を教えましたが、理解してもらえない事がありました。(中学・正負の数)1番の原因は私が相手の分からないところを理解していなかった事だと思います。多分、彼は負の領域を含む加減算以外にも絶対値の概念からできなかったのだと思われます。そのため、いくら符号の考え方を教えてもそのほかの場所が分からないので、なにも解決に繋がらなかったのではないかと考えました。この事から、教える事の難しさを実感しました。機会があればリベンジしたいです。
- 子どもの分からないポイントを知ることが出来ました。また、複数人の子どもを相手にする時に注意しなければならないこともわかりました。
- 環境の異なる児童と関わり、最初は意思疎通が出来るのかな？と不安に思っていたのですが、実際は楽しく関わらせていただいております。
- しなければならない、してはいけないなどといった固定概念にとらわれてはいけないということを学びました。子どものためになるかどうかを考え、子どもの成長や長所・短所に応じて、指導方法も変えなければならないと学びました。
- 勉強が好きの子、苦手な子、いろいろな児童がいることに気づき、その子達にどのように接していくのがよいか、そのつど考える必要があることを学びました。
- 子どもたちに算数を教える際、学年によって教える際の声掛けの仕方が異なることを実体験を通じて学び感じる事ができました。
- 普段は放課後等デイサービスでアルバイトをしています。環境によって児童との関わり方が変わることが体感できました。
- 子どもたちはとても素直に関わっていくうちに気持ちや考えがわかるようになり対応法もわかるようになってきました。一番大きく学んだことはしっかりと一人一人と向き合うことが大切だということです。教職はどうしても忙しく、一人一人と向き合う時間がなかなか取れなくて崩れていくと思うので、しっかり一人一人や保護者の方と向き合ってほかの先生方と連携をとる必要があると感じました。
- 実際にどのように先生方が子どもたちと接しているか間近で見ることができ、声の掛け方やトーン、指導の仕方など学ぶことがたくさんありました。子どもたちと接して学んだことは、嫌だと思うことは人によって違うということ。ある子が友達に指を差されるのをすごく嫌がって怒っていました。しかし、指を差した子は悪気がなかったので、困惑した様子でした。このことから、人によって嫌だと思うことは違うということがよくわかり、教師としてはさまざまな配慮が必要だと感じました。
- ボランティアに参加して、改めて多様な児童がいることを認識することができました。例えば、勉強に真面目に取り組む児童もいれば、そうでない児童もいる中で、私たちはそれを児童の個性だと認め、適切な声掛けや行動を取ることで、児童を少しずつ成長させていくことの大切さを学ぶことができました。
- 普段実際に児童と関わる機会は少ない中、今回のボランティアで接し方や児童の実態を理解することができました。勉強をさせるということが全てではなく、児童とのコミュニケーションを取りながらその中からどうしたら楽しく主体的に学んでくれるのかを考えることができたと感じています。
- 児童生徒は叱って伸ばすのではなくいかに褒め言葉に換言して、やる気を高められるかが非常に重要であると言いうことを学びました。
- 私は生路小学校へしか行っていませんので、他の学校のことはわからないのですが、生路小学校では、毎回「今日はこの学年のこのクラスお願いします」というように伝えてくださり、できるだけたくさんのクラスに入ることができるよう調整してくださっています。5月からボランティアを始めて、7月までに1,2,3年生のクラスは全て入り、9月からは4,5,6年生も含めて入らせていただけるようです。私のことを考えてたくさんいろいろな経験ができるよう配慮してくださり、とてもありがたいです。
- 子どもたちがみんな優しい上に、先生方も優しく接して下さるので、安心してボランティア活動ができています。これからもよろしくお願いします。

- 校長先生に教員採用試験のサポートをしていただいたり、実際に学校に入る以外にたくさんの学びがありました。
- 子ども自身に学ぶ力が備わっていることに気がつきました。また、子どもたちの中には、ボランティアとの会話自体を楽しみにしてくれている子もいることを知りました。算数を通して、子どもの力が引き出され、ボランティアや周囲の児童と一緒に楽しむことができるのが、わくわく算数教室だと感じました。
- 児童が、皆真面目で、素直で、とてもかわいかったです。自ら私のところまで来て、「分からない問題があるから教えて欲しい」と言っていたり、苦手分野を自分で理解していて、自分なりの言葉で教えてくれたりしました。とても真面目な子達ばかりで、自然と私も頑張っって指導力などを高めたいと感じました。また、家などで事前に予習をしていたり、その場で声かけを工夫したり、説明の仕方を工夫したりすると、目に見えて効果が分かり、とても自信になったし、もっと頑張ろうとやる気も出てきました。
 - ・一つだけ、このボランティア活動の期間にずっと考えていたことがありました。「ドリルのページを自分で選ばせるか否か」という問題です。多くの SP は小学生に選ばせている様子でしたが、やはり、小学生だと、まだ好きな物や簡単なものばかりを選んでしまいます。また、4年生の児童でも、「できないものができるようになるのが勉強」「少し難しいと感じるくらいのを解いた方がいい」という内容の話を少ししたところ、「そうなの!？」という返事が来ました。児童の様子からも、プリントの枚数が多いことだけが、勉強を沢山したことになる、と思っている様でした。これらのことを踏まえ、最終日に私の出した私なりの解釈、答えとしては、「自分のためになる勉強の仕方を理解し、確立して、自分で勉強をできるようになるまでは、教師主体で選ぶべき」「その途中段階(移行期間)であれば、教師側が選ぶポイント、勉強をする上で大切なポイントなどを説明することが大切である」となりました。
 - ・長々と書いてしまいましたが、このボランティア活動ではそれでも書ききれないくらいの学びが多くありました。とても素敵な環境で、素敵な学びをさせてくださり、本当にありがとうございました。また機会があれば参加させていただきたいです。”
- 毎日、指導する児童が違ったので、学習内容の把握や、レベル把握、性格の把握など、瞬時にしなければならず、最初のうちは戸惑いましたが、いつしか、寝る前に「明日はどんな子だろうか、どういうふうに指導しようか」とワクワクするほどになりました。また、毎日ほぼ違う児童だったので、短い期間で様々なタイプの児童と接することができ、とても多くの学びを得ることができ、すごく充実したボランティアとなりました。
- 短い時間ではありますが、コーディネーターの先生方の様子なども拝見することができ、話し方や小さな工夫を学ぶことができました。大切なお話(個別最適な学びの話や真面目さだけでなく面白さや楽しさが大切だという話など)もしていただきました。そしてなにより、ボランティアでの雰囲気がとてもよく、初めてで緊張しておりましたが、楽しく活動することができました。
- 児童の感想にポジティブな(楽しかった、できるようになったなどの)コメントがあると、こんなに大人側は嬉しいのか、と感動しました。さらに、どんなに大人しい子でも褒めてあげると嬉しそうな表情をするなど感じました。しかし、他人と比べてしまったりする子もたまに見られたため、これは集団授業の時など、顕著に現れることだろうなど感じました。自分のペースで、自分のやり方でいいし、今の少しの差なんて将来大したことないと、分かっている、上手く伝えられないので、教員の対応力が求められると感じました。
- まだ私自身が子どもである感覚があり、教える立場に立てるかどうかが不安がありました。しかし実際に活動をした際の児童の反応から、児童から見た大学生は大人であるのだと感じ、今まで客観的な視点が足りていなかったのだと気づきました。児童生徒が成長していくにあたって大人と関わる経験は重要なのだと改めて感じ、教育に関わる者としての自覚を持てました。1年生のクラスでは、休憩までの時間が把握しやすいように黒板に時計を掲示し、最後に遊びの時間を設けることで、自主的な勉強が出来るように工夫されているなど思いました。
- 子どもと関わる体験や活動をしたことが無かったので今回の SP 活動はとても緊張しましたが、実際にやってみると想像していたよりも楽しかったです。様々な性格の生徒が居ましたが、どの生徒も話しかけると笑顔で答えてくれました。長期休みの際にまた参加したいと思いました。